

いに勉強させていただき、啓発される機会を得ました。肥後医育の振興の一助に  
なれたのであれば幸いに存じます。

大会長(熊本大学大学院生命科学研究所小児  
科学分野教授) 遠藤 文夫

### 日本精神保健看護学会 第二十二回総会・学術集会報告

平成二十四年六月二十三、二十四日に  
市民会館崇城大学ホール・熊本市国際交  
流会館にて、日本精神保健看護学会第二  
十二回総会・学術集会が開催されました。  
この学会はやと創立二十周年を迎え、  
身体疾患患者の適応障害やこころのケア、  
精神障害者への入院中および地域におけ  
る効果的な支援方法、精神看護学におけ  
る教育技法、精神障害者のケアに関する  
倫理的問題およびその解決方法、精神科  
に従事する看護師のこころの健康、災害  
支援におけるこころのケアなど、幅広い  
問題を取り扱い、精神看護の中でこれら  
の課題を学術的に討議、検討する機会と  
なってきました。現在会員数は一一〇〇  
名を超え、この数年間入会者が急増して  
います。この学会が九州で開催されたの  
は初めてですが、今回は、「根拠に基づ  
く精神看護の実践―患者・家族の体験お  
よび研究を統合した先駆的実践」を学会  
のテーマとし、サンフランシスコ大学看  
護学部 Dr. Robin Buchheri, Dr. Louise  
Trystad 教授をお招きし、UCSF (カ  
リフォルニア大学サンフランシスコ校)  
症状マネジメントモデルと集団精神療法  
のスキルを統合した幻聴に対する行動マ

ネジメントプログラムについて、その内  
容、理論的背景、実践方法と評価、これ  
までのこのプログラムに関する評価研究  
の経緯についてご講演を頂きました。さ  
らに看護系大学院を修了し所定の経験を  
経て資格を有している高度看護実践家

(Advanced Practice of Nurse, APN, 日本  
では専門看護師 Certified Nurse Specialist,  
CNS がこれにあたる) の発展状況や高  
度看護実践家育成のための大学院教育カ  
リキュラムや教育的支援の方法について  
もご教示頂きました。さらに、シンポジ  
ウムでは、精神障害者の地域生活促進を  
目的とした先駆的実践と研究について、  
リエゾン精神看護(福岡好重氏、横浜市  
立市民病院 CNS)、認知症の先駆的治  
療と実践(池田学教授、熊本大学大学院  
生命科学研究所神経精神医学)、長期入  
院患者の退院支援(中山洋子教授、福島  
県立医科大学看護学部)、急性期治療か  
ら地域生活への移行支援(宇野木照代看  
護師長、菊陽病院)というテーマでそれ  
ぞれにご講演を頂き、現在、精神医療・  
看護が直面している問題を明確にし、進  
むべき方向性や課題の解決方法について  
討議を行いました。また現在の精神医療  
における重大な課題ともなっている「う  
つ病患者に対するリワークプログラム」  
や「患者自身による元氣回復行動プラ  
ン」のワークショップも開催し、休職し  
ているうつ病患者への支援方法や患者自  
身の力を病気に負けずどう強化していけ  
るのか、など貴重な講演を頂くとともに  
フロアとの意見交換も行いました。参加  
者は精神看護に従事している現場の看護  
職者、看護教育者、専門看護師らが多く、

精神医療と看護における現状の課題や今  
後の方向性が明らかとなったとのご意見  
を頂き、大会は盛会で終了しました。今  
回、日本精神保健看護学会第二十二回総  
会・学術集会に助成を頂きました肥後医  
育会の皆様へ感謝いたします。

大会長(熊本大学大学院生命科学研究所看護  
学講座、精神看護学教授) 宇佐美しおり

### 日本看護学教育学会 第二十二回学術集会報告

平成二十四年八月四日(土)・五日  
(日)に、熊本県立劇場にて日本看護学  
教育学会第二十二回学術集会を開催しま  
した。メインテーマ「新たな可能性を拓  
く看護学教育」のもと、全国から一八一  
六名(事前参加登録者一〇五〇名、当日  
参加登録者七六六名)が集い、看護学教  
育と人材育成、キャリア開発等について  
熱心な討議があり、成功裡に終えること  
ができました。

会長講演を始め、教育講演Ⅰ「看護学  
教育に活かすARCS動機づけモデル」  
講師: John M. Keller 氏(フロリダ州立  
大学名誉教授)、教育講演Ⅱ「看護のT  
E-A-R-T-Eとその技と精練に向かつて」  
講師: 川島みどり氏(日本赤十字看  
護大学名誉教授)、教育鼎談「キャリア  
を育む看護学教育に活かすARCS動機  
づけモデル」講師: John M. Keller 氏、  
鈴木克明氏(熊本大学社会文化科学研究  
科教授)、小山眞理子氏(日本看護学教  
育学会理事長、日本赤十字広島看護大学  
学長)、特別講演Ⅰ「保健師助産師看護

師国家試験改善について」講師: 西村緑  
氏(厚生労働省医政局看護課)、特別講  
演Ⅱ「災害多発時代の看護教育」講師:  
喜多悦子氏(日本赤十字九州国際看護大  
学学長)、山勢善江氏(同教授)は、い  
ずれも学会の趣旨や学術集会のテーマに  
沿った内容であったと大好評でした。シ  
ンポジウム「看護基礎教育における  
キャリアデザイン教育の現状と発展」と  
シンポジウムⅡ「看護実践者、教育者、  
研究者のキャリア・ビジョン」、一般演  
題二〇八演題(口演九六、指示説一一  
二)は、どの会場でも活発な質疑応答が  
あり、新たな教育と研究への示唆が得ら  
れました。スイーツセミナー「禁煙  
フォーラム」やつてみよう!禁煙サポー  
ト、ランチオンセミナー「インフルエ  
ンザ二〇〇九: 現場の戸惑いと対応」、  
「キャリアが育てた女性企業家への道」  
も有意義な示唆を得ました。市民公開講  
演「夢は叶うもの、思い強ければ、笑顔  
笑顔」講師: 大野勝彦氏(風の丘阿蘇大  
野勝彦美術館長)では、生きる勇気を頂  
きました。

本学術集会を開催するにあたり多大な  
ご支援を頂きました公益法人財団肥後医  
育振興会に深く感謝し御礼申し上げます。  
熊本大学大学院生命科学研究所 環境社会医  
学部 看護学講座 教授 学術集会長  
森田 敏子

### 「第三回熊本県医療人育成 総合会議」の開催

日本において医療需要がピークを迎え